

すぎなみ大人塾

すぎなみソシャル・デザイン塾～杉並をデザインする社会起業家になる～

第一章 「つながり発見」～自分を知る・杉並を知る

学習支援者：(株)三井物産戦略研究所 新谷大輔さん

7月5日(水)第二回 新谷大輔さんの講義内容

1 第一回(6月21日)キックオフのワークシート記入を復習する。

1) 自分のキーワードを作る・・・自分は何者なのか、今の自分を伝えるキーワードを見つける。

個人に関するキーワードと自分自身を現すキーワード

やっていること、関心興味のあることキーワード

特に自分が大切と思うキーワードを書き出す

2) 自分のキーワードを作る

自分自身のキーワードと関心興味キーワードを結び「つながり」「関係性」を書き込む作業をしました。

2 自分自身を現すキーワードを意識した上で、7月5日は

「自分のリソースを気付く」宿題編、アセットマッピングの書き込み講義がありました。

参考資料：第1章「つながり発見」講座概要(パワーポイント資料)をご覧ください。

<http://www.chinoichiba.net/2006kouzapdf/tunagar ihakkenkouzasiry you.pdf>

つながりのあるコミュニティ(イタリアの地域コミュニティ)

つながりのあるコミュニティ(まちづくりとソーシャル・キャピタル)

つながりのあるコミュニティ(コミュニティ・アセットマップ)

つながりのあるコミュニティ(NPOとの関係)

地域をまとめる力、各地域のとのつながりを強くする因子とは、地域で事業を起こし資本と人材を育てる仕組み、大家族単位の動き、地域の風土を尊重する気風などと考えられる。このような事柄が薄れてきた地域にとって、NPOの活動は注目をしている。NPOは

NPOを形成する人々の間での信頼関係によって結合し、NPO同士が「つながり」を保っているため、ソーシャル・キャピタルを形成する中心的な役割を担う可能性に満ちている。

3 「自分のリソースを活用する」ワークショップを行う。

このワークショップの目標は、自分のリソースを課題解決に活用することです。

活用した資料：ワークシート060705.pdfを参照してください。

1) 演習の前提条件

「みなさんの近くに28階建ての大きなマンションが出来ました。しかし、その住民は地域とのつながりがなく、昔から住民との交流がほとんどありません」

課題 マンション住民と旧住民の交流を生み出すアイデアを考えましょう。

課題解決策を考え出す手順

1) 作成した、アセット・マップの中から、アセットとアセットを「つないで」みる。

2) 交流を生むために、何と何を「つなぐ」とよいか、考える。

3) どのような交流が生まれると、町全体がよくなるのか考える。

マンション住民、旧住民とも、生活と暮らしに十分満足しているわけではありません。

お互いに不自由していること、やりたくてもできないことなどがたくさんある、それらをお互いに補完しあうことで暮らし易い町になる筈です。